

2026年3月作成
(2025年12月末基準)

対象ファンド
【国内株式・債券等】

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

プロダクトガバナンスレポート

公募ファンドの運用について



● ごあいさつ	2
---------	---

● 会社体制(会社情報・各種ガバナンス体制)

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー	3
コーポレートガバナンス体制	4
純資産総額／会社収益	5
運用哲学／運用体制	6
開示・情報提供に関する取り組み	7
バリューマネジメント活動	8
ファンド提供価値の評価・改善対応フロー	9

● カテゴリごとのファンド運用状況

当レポートでご報告するファンドについて	10
01 国内株式・大型ブレンド型	11
02 国内株式・大型成長型	14
03 国内株式・大型割安型	19
04 国内株式・中小型ブレンド型	21
05 国内株式・中小型成長型	22
06 国内株式・中小型割安型	24
07 国内株式・特定地域/セクター型	25
08 国内REIT	26
09 国内債券・中長期型	27
10 国内債券・その他	29
11 国内債券・公社債投資信託	30
12 国内短期金融資産	31



ごあいさつ

私たちの経営ビジョン「あなたと社会」の豊かな未来に貢献する”には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いを込めています。

私たちは、当社が果たすべきフィデューシャリー・デューティーを常に探求していく不断の取り組みこそが、“お客さまの資産形成・資産運用や持続可能な社会の実現に貢献する”ことに繋がるとの考えから、フィデューシャリー・デューティーを当社役職員に求められる思考様式・行動様式として位置づけ、全役職員でこれに取り組んでいます。

商品・サービスの更なる向上に向けた取り組みの進捗状況や、社員研修によるお客さま本位の姿勢の定着度合いなどをモニタリングするため、フィデューシャリー・デューティー推進委員会を定期的で開催しています。

また、当社では取締役会傘下にフィデューシャリー・デューティー/プロダクトガバナンス諮問会議を設置しており、本諮問会議を社外取締役主体の会議体とすることで、監督的な視点を強化し、プロダクトガバナンスだけでなくフィデューシャリー・デューティーの取組状況のモニタリング等にまでテーマを拡げることにより、お客さま本位の業務運営やプロダクトガバナンスに関する取り組みの更なる深化を進めております。

当レポートは、当社のプロダクトガバナンス態勢についてご説明することに加えて、プロダクトガバナンスの視点で、当社が設定・運用する公募ファンドについて、お客さまにコストに見合うリターンを提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能か等を定期的に検証し、個別ファンドごとに品質管理を行った結果をご報告させていただくものです。

お客さまや社会が求める未来は、価値観や時代などに応じて変化しますが、私たちは、いつの時代も資産運用を通じてより良い未来づくりにアセットマネジメント会社として貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、三菱UFJアセットマネジメントをご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役社長
横川 直



経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー

当社が投資信託を通じ、お客さまの大切なご資金をお預かりするという役割の重要性と、社会に果たすべき責任を踏まえ、当社の“社会における存在意義”を定義した「経営ビジョン」を定めています。経営ビジョンを企業活動の拠り所としながら、特に投資信託をご活用いただくお客さまの目線に立った商品・サービスの提供・品質向上に向けて重視する事項を「プロダクトガバナンス*・ポリシー」として定め、お客さま本位の業務運営に取り組んでいます。

*「プロダクトガバナンス」とは、お客さまへ良質な商品（プロダクト）・サービスを提供するために、商品の組成・運用において適切な運営・モニタリング・品質管理を行うことを指します。

経営ビジョン

社会においてこうありたいという第三者的な視点に立ち、資産運用を社会インフラのひとつとして根付かせ、資産運用の拡大と共に成長していくとの想いを経営ビジョンとして策定しています。

「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する

わたしたちは、資産運用を通じて「あなた」と「社会」をつなぎ、より良い未来に貢献します。

三菱UFJアセットマネジメントは、プロフェッショナルとして、お客さまの大切なご資金を運用する資産運用会社です。わたしたちの「経営ビジョン」には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いが込められています。

プロダクトガバナンス・ポリシー

プロダクトガバナンスにおいて、お客さまの目線を重視する考え方のもと、大切にしていること、重視していることを「商品性」「運用管理」「開示」の3つの側面からポリシーとして制定し、更なる品質向上に取り組んでいます。



商品性

現在および将来、当社の投資信託を保有いただくお客さまのニーズに沿った最適な商品の組成・提供を目指します

- 提供価値（ファンドの目的・特色）の明確化



運用管理

お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているかモニタリングすることにより、投資信託を通じた提供価値の維持を目指します

- 信託報酬（運用管理費用）等控除後の運用成果のモニタリングを徹底
- 運用成果の追求に向けた取組みの徹底
- ファンドの目的・特色が十分提供できていない場合、適時適切に対応



開示

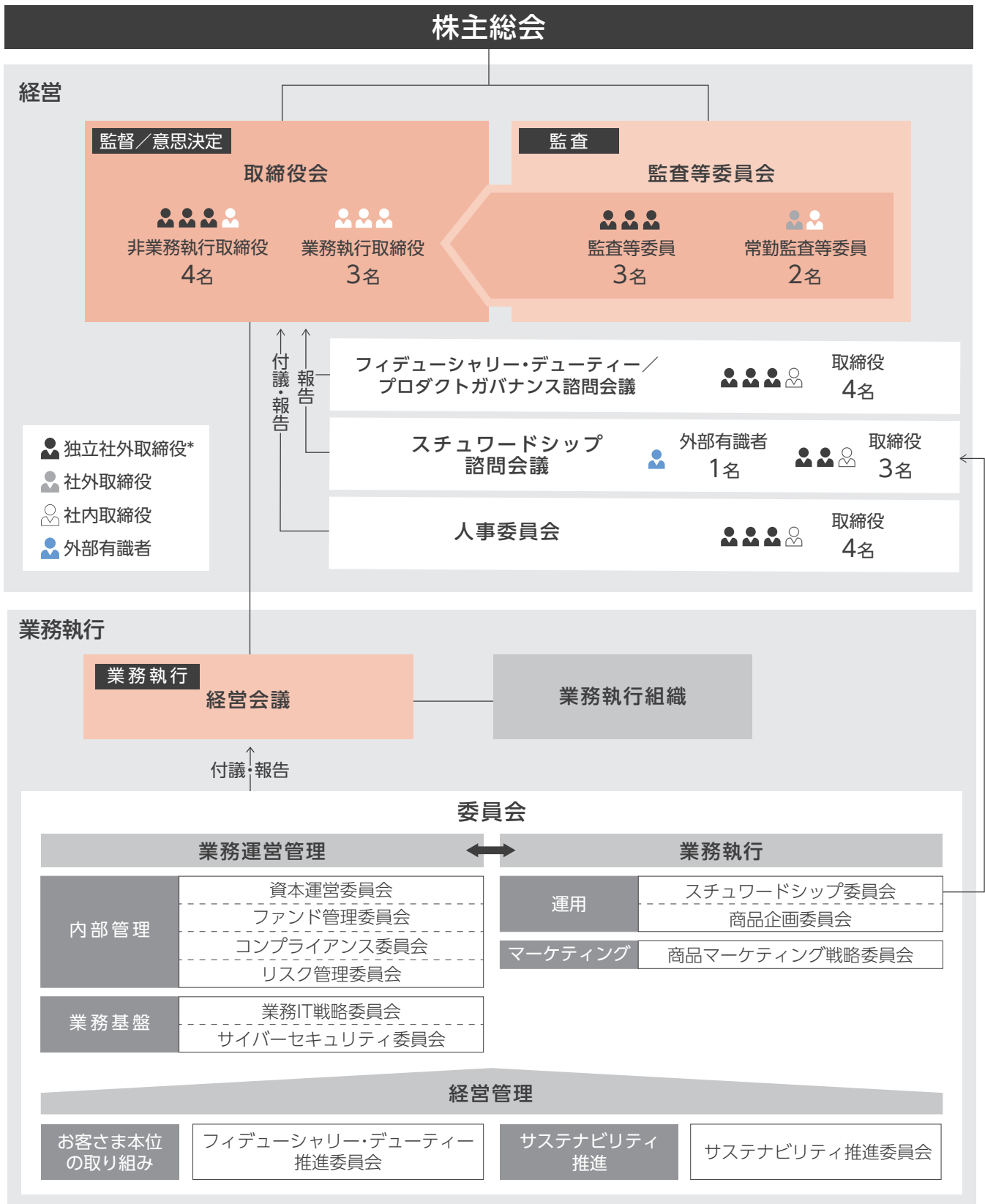
お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指します

- 正確な情報をわかりやすく提供
- 様々な手段・方法で、タイムリーに情報を提供

コーポレートガバナンス体制

適切なプロダクトガバナンスには、適切なコーポレートガバナンス体制が必須条件と考えております。当社では経営の監督・意思決定を行う取締役会と、それを監査する監査等委員会のもと、経営会議傘下で業務執行に当たっています。外部目線の導入が特に必要と考える会議体には、社外取締役・外部有識者に参加いただき、コーポレートガバナンスの高度化に努めています。

2025年12月末 現在

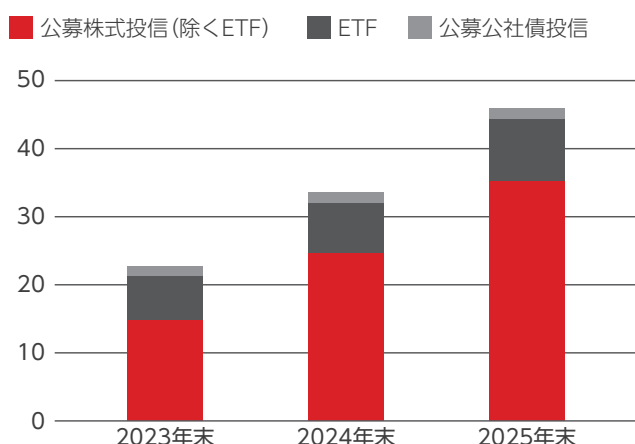


(*) 当社で定める「社外取締役の独立性判断基準」に基づき当社から独立性を有している社外取締役

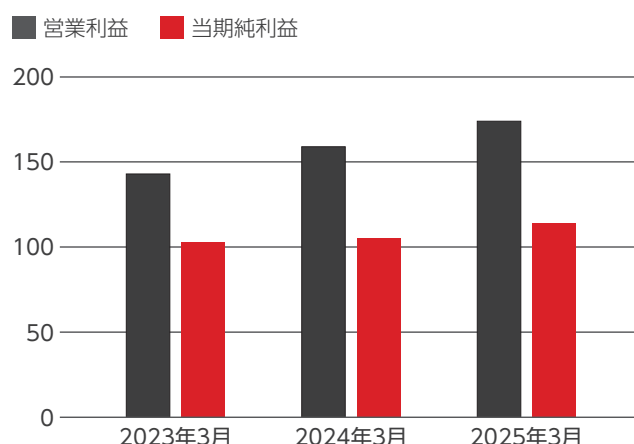
純資産総額／会社収益

ファンド運営の前提となる会社の継続性に関しまして、当社ファンドへのお客さまからのご支持に加えて資産運用の浸透・拡大も受け、2025年末時点の当社公募投資信託純資産総額は46.0兆円となりました。また、収益状況は安定的に推移しております。

当社公募投資信託純資産総額の推移 (兆円)



当社収益状況の推移 (億円)



TOPICS

●フィデューシャリー・デューティー／プロダクトガバナンス (FD/PG) 諮問会議 運営状況

フィデューシャリー・デューティー (お客さま本位の業務運営) とプロダクトガバナンス (商品の組成・運用に対する適切な運営・モニタリング・品質管理) に係る取り組みの監督機能強化のため、取締役会傘下へ「FD/PG諮問会議」を設置・運営 (2024年8月～) しております。本諮問会議は、監督的な視点の下で各種テーマに関する取り組みの更なる深化を図ることを目的としています。

2025年度は、10月までにプロダクトガバナンスをテーマに2回 (2025年4月、10月) 開催し、下記内容等について社外取締役に意見聴取を行い、今後更に注力していくべき事項や、課題の確認などを行っています。

●本諮問会議で取り扱ったプロダクトガバナンスに係るテーマ (抜粋)

【バリューマネジメント活動*の浸透・強化】

- 提供価値の維持に向け、異常を早期に検知し対応する社内体制の整備・運営状況など

*詳細はP8参照

- 運用及び商品開発の現場と、監督側の両者によるモニタリング体制が定まり安定稼働
- パフォーマンス改善対応中の各ファンドの個別性に依じた対応方針について議論

【運用関連情報の発信強化・拡充】

- お客さまの投資判断や当社運用体制への理解の一助となることを目的に、運用関連の開示情報を強化・拡充する方針・検討状況について

- 運用担当者からのダイレクトな情報発信をめざすと共に、運用に係る情報を集約した特設サイトの開設など、検討中の対応方針について議論

【プログレスレポートで示された着眼点への対応】

- 金融庁が発行した「プログレスレポート」にて示された着眼点ごとに紹介されている「工夫がみられる事例」、「課題と考えられる事例」を参考とした検討状況など

- 課題と考えられる事例について当社の考え方・改善を要するポイントなどをまとめ、外部視点から見た対応の妥当性や潜在課題の有無を議論

運用哲学／運用体制

当社の運用プロフェッショナルが、付加価値の創造、的確なリスク管理、規律ある運用プロセスなどの運用哲学に基づき、投資いただいているお客さまに最良の投資成果をお届けできるように努めています。運用部門では、お客さまに良質な商品を継続的に提供すべく、組織的かつ各運用者が高いオーナーシップを発揮する運用体制を構築し、サステナブル投資の観点からも社会課題解決に資するスチュワードシップ活動に取り組んでおります。また、株式や債券のような伝統的資産からの運用ニーズの多様化が進む中、証券化商品などクレジット領域を担うクレジット運用部の設立に続き、プライベートアセット領域を担うプライベートアセット運用部を新設(2025年7月1日付)しており、運用のケイパビリティ拡充を推進しております。

お客さまにご満足いただける投資成果を安定的かつ継続的に提供することを目指しています。

運用哲学

01 付加価値の創造

最良の運用成果を得るためには、徹底した調査・分析と適切な運用判断による付加価値の創造が必要です。私たちは、徹底した情報収集、詳細な分析、適切な判断を通じて付加価値の獲得を目指します。

02 的確なリスク管理

運用においては、意図したリスクを取り、意図しないリスクを排除することが必要です。私たちは、的確なリスク管理を実践し、効率的に付加価値の獲得を目指します。

03 規律ある運用プロセス

規律と一貫性のあるプロセスが、運用の質的向上につながります。私たちは、チームワークを重視し、かつ「Plan→Do→See」に裏打ちされた規律あるプロセスによって、運用の一貫性を確保します。

04 適切な情報開示

お客さまに信頼していただきながら、ご期待に沿った資産運用を行うためには、情報の開示が不可欠です。私たちは、運用の状況と運用に対する考え方を適切にお伝えすることにより、お客さまの信頼獲得を目指します。

運用体制

(2025年12月末現在)

運用部門					
部門長 高鍋 朗		運用経験年数 32年	副部門長 大久保 隆		運用経験年数 7年
運用部	運用責任者 (運用経験年数)	運用対象	FM人員 (運用経験年数)	担当運用資産 (十億円)	
運用担当	戦略運用部	加納 良樹 (29年)	主としてバランス型ファンド・計量的手法等を利用したファンドの運用	19名 (平均12年)	546
	株式運用部	森 博 (28年)	主として内外株式の運用	43名 (平均18年)	1,641
	債券運用第一部	氏原 圭作 (36年)	主として内外債券の運用	9名 (平均22年)	429
	債券運用第二部	古田 憲司 (28年)	主として内外債券の運用	23名 (平均14年)	3,273
	クレジット運用部	永田 幸佐 (18年)	主としてクレジット関連商品の運用	6名 (平均6年)	5,511
	インデックス運用部	荻野 太陽 (18年)	主として全資産のインデックス運用	24名 (平均9年)	42,142
	外部委託運用部	笹井 泰夫 (29年)	主として外部運用会社との提携ファンドの運用	39名 (平均9年)	8,134
運用企画部	運用に関する施策企画、運用モニタリングおよびファンドマネジャーのパフォーマンス評価				
サステナブル投資推進部	サステナブル投資に関する業務および施策企画				
プライベートアセット運用部	主としてプライベートアセットの運用・企画・調査				
トレーディング部	有価証券等の発注およびファンド余資運用				
商品開発部	商品開発に関する企画立案、投資信託等に関わる商品開発および分配金・償還・品質維持・品質改善管理、商品関連契約				

*国内籍の公募および私募投信、投資一任・投資助言を対象に集計。助言は投資助言の内容・範囲等にかかわらず、顧客資産の額(契約簿価)を前提とした契約を集計。プライベートアセット運用部は現状自社資金による運用のみであり上記対象からは割愛。

開示・情報提供に関する取り組み

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指して、各種開示・情報提供に取り組んでおります。個別ファンドの運用状況に関する定期的・日常的な情報提供について、適時・適切な実施に努めているほか、開示・情報提供に関する、全社的あるいはファンドを横断した高度化・拡充についても取り組みを進めております。当ページではそれらの取り組みの一例をご紹介します。

取り組み事例 当社ホームページ上における投信実績シミュレーションの提供開始

- これまで当社では、ホームページ上において、想定リターンおよび想定リスクに基づき将来予測を試算できる「つみたて投資シミュレーション」「一括投資シミュレーション」「取り崩しシミュレーション」といった、各種シミュレーション・ツールを提供してまいりました。
- このたび2026年3月、より現実的な資産形成をイメージしていただくことを目的として、「投信実績シミュレーション」の提供を開始いたしました。投信実績シミュレーションは、当社ファンドや指数について、一定期間投資を行った場合の過去の実績をもとに、投資成果を試算できる機能です。
- 過去の基準価額(分配金再投資)を用いた実績シミュレーションにより、これまでの値動きを直感的に把握することができます。また、ファンドの組み合わせや投資比率、リバランスの有無などをさまざまに試しながら、ご自身に合った投資を検討することが可能です。
- 今後も機能の充実に努めるとともに、より分かりやすい情報発信に努めてまいります。

The image shows a three-step simulation tool. Step 1: Selecting funds and indices. Step 2: Setting investment ratios for selected funds. Step 3: Inputting investment amount (10 million yen), monthly contributions (1 million yen), start date (July 2018), and rebalancing frequency (0 times/year). The results are shown in two charts: 'Investment Results' and 'Fund vs. Index Comparison', both showing growth from 2020 to 2024. A red arrow points from the input screen to the charts.

※上記はイメージです。

https://www.am.mufig.jp/tool/simulation_jisseki.html

取り組み事例 当社公式SNSアカウント等を通じたタイムリーな情報発信

- 当社では、各種公式SNSアカウント等を通じた投資信託や投資関連情報等のタイムリーな情報発信に努めています。
- 例えば、2025年4月の株式市況の下落局面では「足元の相場変動を受けて皆さまへのメッセージ」や当社エコノミストによる解説動画を発信するなど、投資家の皆さまの長期投資の一助となるような情報発信に努めています。



投信オンエア
投資関連情報をサクッとお届け♪



eMAXIS LINE
「eMAXIS」の関連情報をお届け！



X
投資関連情報をポスト中！



オルカンカフェ
長期投資を実践するみんなのコミュニティ♪

※eMAXISシリーズのリスクと費用については[こちら](#)をご確認ください。
 ※eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)(愛称:オルカン)の[リスク・費用](#)
 ※「オルカン」は当社の登録商標です。

バリューマネジメント活動

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、ファンド提供価値の維持・向上へ継続的に取り組んでいます（バリューマネジメント活動）。運用・商品担当部署においてはファンドの各種運営とともに、ファンドの品質管理・改善を自律的に行っております。それに加え、バリューマネジメント統括部署においてファンド提供価値の評価を行い、必要に応じて運用あるいは商品性の改善を促すなど、お客さまの信頼に応える商品提供を心掛けております。

お客さまの信頼に応える商品提供

バリューマネジメント活動 (ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)

運用・商品担当部署による 自律的な品質管理

運用状況のモニタリング・
商品性の確認



日常的な品質改善

バリューマネジメント統括部署が 指揮する組織的な品質管理

ファンド提供価値の評価



要改善ファンドの改善*・
フォローアップ

*改善策の立案・実行はバリューマネジメント統括部署からの指示に基づき、運用・商品担当部署が行います。



ファンド提供価値の評価・改善対応フロー

当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)を対象に、ファンド提供価値の評価を行います。その結果、運用や商品性に改善を要すると考えられるファンド(要改善ファンド)については改善策を策定します。ファンド提供価値の評価・改善対応は以下のフローに基づいて行っており、当レポートでは、評価結果および改善対応の状況についてご報告いたします。

STEP 01 パフォーマンス評価

- 当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)について、コスト控除後のリターン*¹を用いて、当社ファンドと同じカテゴリ*²に所属する競合他社ファンドのなかでの相対的な順位を確認します。
- 競合他社ファンドとの比較は5年、10年、設定来などの複数期間*³で行います。

*1 お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているか確認するため、分配金再投資換算の基準価額を使って信託報酬(運用管理費用)等控除後のリターンを算出します。

*2 恣意性を排除するため、外部評価機関であるMorningstarによるモーニングスター・カテゴリを使用します。モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

*3 インデックスファンドについては、特定指数と同じ値動きを目指す商品性であること等から、対象指数との期間1年の連動性も含めて評価します。

STEP 02 ファンド提供価値の評価

- STEP1のパフォーマンス評価において、パフォーマンスの相対順位が一定水準以下となる競合他社比で劣後しているファンドについて、多角的な視点からより詳細な分析を行います。
- パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性などの分析を行い、お客さまにご負担いただいたコストに見合うリターンが提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能かなどの観点からファンド提供価値を評価します。

STEP 03 要改善ファンドの特定・改善策の検討

- STEP2の分析により、運用や商品性に改善すべき課題が特定された場合には、ファンド提供価値の向上を目的として、当該課題を解決すべく改善策を検討します。

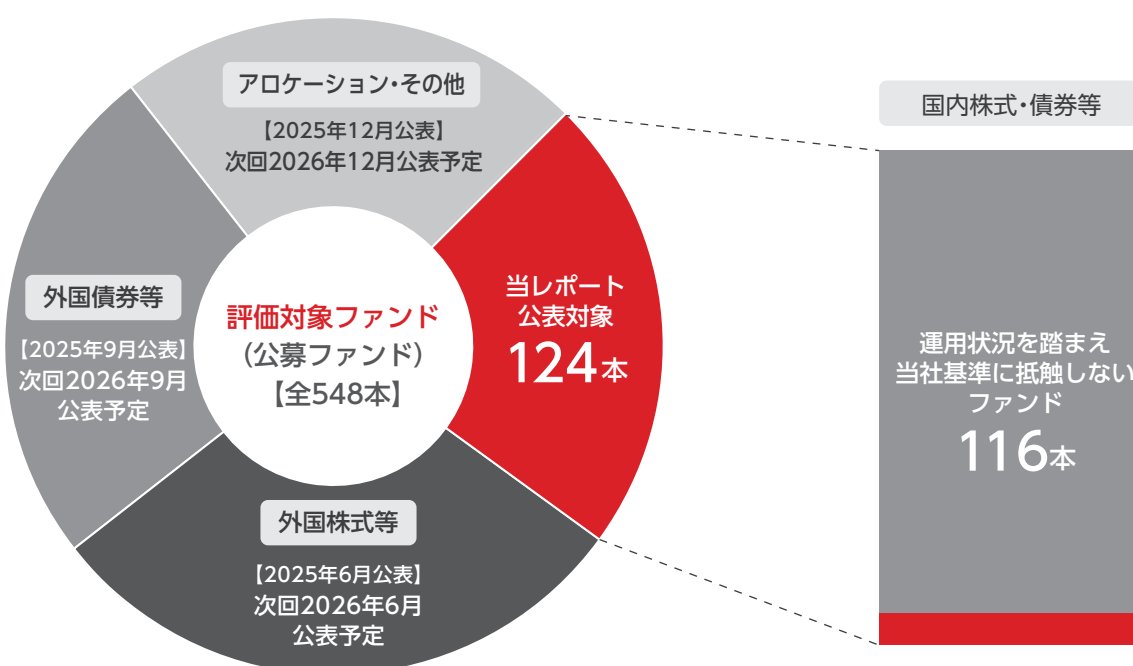
STEP 04 要改善ファンドのフォローアップ

- STEP3で策定した改善策が効果を発揮し改善が図られているかモニタリングを行い、お客さまに十分な価値提供ができているか確認できるまでフォローアップを継続します。
- 改善策やその後の進捗状況については、当レポートでお客さまに開示します。

当レポートでご報告するファンドについて

当レポートでは評価対象ファンドを「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の4つに分類し、各分類ごとに順次公表いたします。今回は「国内株式・債券等」に分類する124本のファンドを対象とし、評価した結果、以下8本のファンドについて要改善ファンドに該当すると判断いたしました。分析結果や改善に関する取り組み状況については、モーニングスター・カテゴリ別に次ページからご説明いたします。

※「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の分類はモーニングスター・カテゴリを基に当社が行います。モーニングスター・カテゴリで国内株式、国内REIT、国内債券、国内短期金融資産に属するファンドを「国内株式・債券等」に分類しています。
 ※各ファンドの分析はモーニングスター・カテゴリ内における比較により行います。各ファンドの所属カテゴリや公表予定時期については当社ホームページ内[プロダクトガバナンスレポートページ](#)上のエクセルファイルをご確認ください。
 ※モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。



要改善ファンド 8本

ファンド名	設定日	掲載ページ
三菱UFJ システムバリューオープン(愛称:プロフェッサー)	2001/03/30	13
日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン) 三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド(愛称:飛躍)	2000/05/02	16
三菱UFJ グローバルイノベーション(愛称:ニュートン)	2000/06/30	17
未来イノベーション成長株ファンド	2018/03/27	18
三菱UFJ SRIファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)	2004/12/03	20
いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	23
いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	23
三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	28

01 国内株式・大型ブレンド型

対象ファンド数 当社29ファンド／業界全体294ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド29本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
25.1	24.5	15.9	10.5	0.77

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは株式時価総額、成長性、株価の面からみて日本の株式市場全体を代表するものである。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。成長または割安のいずれの特性も優勢でないポートフォリオがブレンド型と分類される。カテゴリ内のファンドは、様々な業種に分散投資を行い幅広いエクスポージャーを持つことから、東証株価指数(TOPIX)と同じようなリターンとなる傾向がある。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS JPX日経400インデックス	2014/04/01	121	—	■
2	eMAXIS Slim 国内株式(TOPIX)	2017/02/27	4,527	—	■
3	eMAXIS Slim 国内株式(読売333)	2025/03/26	17	—	■
4	eMAXIS TOPIXインデックス	2009/10/28	318	—	■
5	eMAXIS ジャパンESGセレクト・リーダーズインデックス	2018/10/22	19	—	■
6	MAXIS JPX日経インデックス400上場投信	2014/02/05	10,298	—	■
7	MAXISカーボン・エフィシエント日本株上場投信	2020/02/05	24	—	■
8	MAXIS トピックス上場投信	2009/05/14	41,544	—	■
9	MAXIS トピックス(除く金融)上場投信	2019/01/10	9	—	■
10	MAXIS 読売333日本株上場投信	2025/03/26	7	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
11	国内株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2019/12/16	1,212	—	■
12	つみたて日本株式(TOP I X)	2017/08/16	715	—	■
13	つみたて日本株式(読売333)	2025/04/16	0.01	—	■
14	トピックスオープン	1990/03/15	151	—	■
15	三菱UFJ <DC>TOP I X・ファンド	2001/10/18	64	—	■
16	三菱UFJ DC国内株式インデックスファンド	2003/09/30	2,524	—	■
17	三菱UFJ DCジャパンESGセレクト・リーダーズインデックス	2020/08/31	37	—	■
18	三菱UFJ DCトピックスオープン	2002/11/29	323	—	■
19	三菱UFJ DC年金インデックス(国内株式)	2018/09/26	373	—	■
20	三菱UFJ TOP I X・ファンド	2001/03/26	205	—	■
21	三菱UFJ トピックスインデックスオープン	2000/04/13	255	—	■
22	三菱UFJ トピックスオープン	2001/03/30	35	—	■
23	三菱UFJ トピックスオープン(確定拠出年金)	2001/12/28	170	—	■
24	ラップ向けインデックス f 国内株式	2021/04/16	186	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	国内株式セレクション(ラップ向け)	2017/03/13	636	—	■
2	三菱UFJ システムバリューオープン(愛称:プロフェッサー)	2001/03/30	134	●	■
3	三菱UFJ 日本株アクティブ・ファンド(愛称:凄腕)	2000/10/31	120	—	■
4	三菱UFJ 日本株式オープン(愛称:選・人・力)	2000/04/28	31	—	■
5	三菱UFJ バリューオープン	2000/09/29	269	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型ブランド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

三菱UFJ システムバリューオープン〈愛称:プロフェッサー〉

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/531901.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を主要投資対象とし、本来あるべき価格(理論株価)に対する割安度に着目した銘柄選定を行うバリュー型のファンドです。
- 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマーク(運用成果の目標基準)として、これを中長期的に上回る投資成果をめざします。
- 各銘柄の理論株価および理論株価に対する割安度の測定については、三菱UFJ信託銀行グループが独自に開発した「理論株価モデル」を活用します。
- ファンドの運用において活用される「理論株価モデル」は、三菱UFJ信託銀行と同社グループの投資理論研究機関「MTEC」が共同開発したもので、わが国の株式を対象に、本来あるべき価格(理論株価)に対する割安度を分析するシステムです。
- ポートフォリオの構築にあたっては、割安度を最大化しつつ、業種構成や規模構成など割安度以外の要素についてはベンチマークと同程度となるように、最適化を図ります。
- 株式の実質組入比率は高位を基本とします。

2 運用状況の振り返り

- ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を過去3年以上の期間では下回る状況が続いています。2010年以降の株式市場で、割安度に着目した運用手法が株式市場全体の値動きに対して劣後する局面となり、当ファンドが活用する「理論株価モデル」の有効性が低下しました。それを踏まえて、2020年からややリスクを抑えた運用を行ったことが、割安度に注目した運用手法が機能する局面を迎えた中で、運用成績の悪化要因となりました。
- 2023年1月実施の運用改善において、「理論株価モデル」で算出した割安度を基にポートフォリオを構築する際に、配当利回りなどの割安度との相性の良い投資指標の追加を行ったほか、リスク水準の引上げを実施しました。改善実施後の運用は、割安銘柄の組入比率を高めたことはプラスに寄与しましたが、個別銘柄要因や業種要因に左右されるなど、ポートフォリオ構築方法に課題があると認識し、制約条件に使用する業種分類や閾値の見直しなどの最適化条件や運用プロセスの改良に向けた分析に取り組みました。
- 過去1年ではポートフォリオ構築方法の課題に対する改善策の検討を継続しつつ、これまでの運用を継続しました。国内金利上昇などを背景にバリュー優位な環境下、これまで実施した改善策の効果は得られましたが、ポートフォリオへの割安銘柄の組み入れが不十分だったことなどから、十分なパフォーマンス改善には至りませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- これまでポートフォリオ構築方法の課題に対する改善策を継続的に検討してきましたが、制約条件に使用する業種分類や閾値の見直しなどを行い、業種リスクを適切にコントロールしながら、割安銘柄の組み入れを高める改善案を検証し、十分な改善効果を確認したため、2026年3月より導入いたしました。
- 割安度に注目した運用手法を活用している他の運用主担当者とのモデルの分析に関するミーティングの機会を頻繁に設けるなど、運用主担当者間で密接に連携しながら、引き続きパフォーマンスの向上に向けた運用改善を実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型ブレンド型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を過去1年では上回っていますが、その他の期間の多くでは下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ システムバリューオープン	2001/03/30	134	26.6	24.4	16.0	7.9	4.2	1.65
国内株式・大型ブレンド型 カテゴリ平均			25.1	24.5	15.9	10.5	5.5	0.77
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			25.5	24.7	16.3	10.8	6.0	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※国内株式・大型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

02 国内株式・大型成長型

対象ファンド数 当社30ファンド／業界全体198ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド30本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド3本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
24.0	23.3	12.8	10.9	0.90

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が大きく、同規模の株式に比べ成長性が相対的に高い日本の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。利益、売上、純資産、キャッシュフローの成長性が高く、バリュエーションが割高な(株価収益率が高く、配当利回りが低い)ポートフォリオが成長型と分類される。カテゴリ内のファンドは、急成長を遂げている業種に投資する傾向がある。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	<DC>インデックスファンド225	2001/11/14	78	—	■
2	eMAXIS JAPAN クオリティ150インデックス	2015/11/06	29	—	■
3	eMAXIS Slim 国内株式(日経平均)	2018/02/02	2,581	—	■
4	eMAXIS 日経225インデックス	2009/10/28	869	—	■
5	MAXIS JAPAN 設備・人材積極投資企業200上場投信(愛称:前向き日本)	2016/06/27	42	—	■
6	MAXIS 日経225上場投信	2009/02/24	31,551	—	■
7	インデックス・タイプ(ミリオン)	1987/11/27	45	—	■
8	インデックスファンド225	1986/05/23	1,118	—	■
9	つみたて日本株式(日経平均)	2017/08/16	2,232	—	■
10	三菱UFJ インデックス225オープン	1998/11/09	1,692	—	■
11	三菱UFJ インデックス225オープン(確定拠出年金)	2002/05/27	278	—	■
12	夢楽章 日経平均オープン	1997/12/01	75	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	<DC>日本株スタイル・ミックス・ファンド(愛称:総合力)	2001/11/14	354	—	■
2	J・エクイティ(愛称:K 2000)	2000/04/07	67	—	■
3	これぞ、日本株	2018/11/16	10	—	■
4	成長株ジャパン・オープン	2011/06/17	109	—	■
5	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン)三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド(愛称:飛躍)	2000/05/02	15	●	■
6	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン)三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド(愛称:潮流)	2000/05/02	20	—	■
7	日本厳選プレミアム株式オープン(年2回決算型)	2014/01/20	92	—	■
8	三菱UFJ DC厳選日本成長株オープン(愛称:厳選ニッポン)	2001/12/07	57	—	■
9	三菱UFJ DC日本株ESGアクティブファンド(愛称:そだてるみらい)	2020/08/31	13	—	■
10	三菱UFJ グローバルイノベーション(愛称:ニュートン)	2000/06/30	56	●	■
11	三菱UFJ ジャパン・アクティブ・プラス	2006/09/20	20	—	■
12	三菱UFJ 日本株アクティブオープン(愛称:ファール先生)	1998/06/30	142	—	■
13	三菱UFJ 日本株アクティブオープン(確定拠出年金)(愛称:ファール先生(確定拠出年金))	2002/05/27	432	—	■
14	三菱UFJ 日本株オープン「35」	1999/03/24	89	—	■
15	三菱UFJ 日本株グロースオープン(愛称:ステージ21)	1999/10/29	32	—	■
16	三菱UFJ 日本成長株オープン(愛称:ブルーム)	1999/04/28	22	—	■
17	未来イノベーション成長株ファンド	2018/03/27	170	●	■
18	優良日本株ファンド(愛称:ちから株)	2009/03/18	385	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

個別ファンドごとの改善に向けた取り組み

日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウィング・ワン)
三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/920614.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、“グロース”(企業の成長性)に着目した運用を行うことにより、株価純資産倍率の高い銘柄で構成されるRUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)を上回る投資成果をめざします。
- 銘柄選定にあたっては、企業の定性評価を重視します。定性評価の判断では、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力などに着目します。業績低迷企業であっても、将来の「成長」が期待できる銘柄は投資対象となります。
- 企業訪問等を中心とするボトムアップ・アプローチ方式により銘柄選定を行います。ファンドマネジャーおよび当社アナリストによる企業訪問調査結果をベースとします。
- 当ファンドおよび三菱UFJスタイルセレクト・バリュエーションファンド、三菱UFJスタイルセレクト・ブレンドファンド、BWマネープールファンドはスイッチング(乗換)が可能です。*
- *スイッチングの際の購入時手数料は、販売会社が決めるものとします。また、換金するファンドに対して信託財産留保額(BWマネープールファンドは除きます。)および税金がかかります。
- *販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは、販売会社にご確認ください。
- *BWマネープールファンドの購入は、BWマネープールファンド以外の各ファンドからのスイッチングの場合に限定します。

2 運用状況の振り返り

- 過去5年以上の期間では、当ファンドはカテゴリ平均やベンチマークであるRUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)を下回る局面が継続しました。要因として、ボトムアップによる銘柄選択において、一部の成長テーマを十分に捉えられず、適切な候補銘柄の発掘とファンドへの組入れにつながらなかった点を認識しています。また、投資期間が短かったことにより、成長企業の中長期的な価値創出を取り切れない場面があったことも、パフォーマンスが伸び悩んだ要因と考えています。
- 一方、過去1年および3年ではパフォーマンスは改善基調を示しています。これは、2023年中頃より運用改善として進めてきた中長期のバリュエーションに基づく投資判断の枠組み構築が機能し成長企業の中長期的な価値創出を評価した銘柄選択がプラスに寄与したことに加え、2024年4月からの成長市場分析の導入による投資テーマの拡大、また生成AIを含む構造的成長領域への適切なエクスポージャーを確保できたことが背景にあると考えています。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 上記の運用状況や実施してきた運用改善を踏まえ、成長市場ごとの投資魅力度を精査し、高い成長が期待される銘柄を適切に見極められるよう成長市場分析の高度化に取り組んでいます。また、業種区分と実際の事業との乖離が目立つ銘柄における成長機会の見逃しを防ぐため、リサーチにおいて担当セクターの枠を超えて投資アイデアを共有するクロスセクターでの定例議論を導入しました。
- 成長市場分析の高度化やクロスセクターでの定例議論の導入によって、さまざまな成長市場から高い成長が期待される銘柄を見極めることで超過収益機会の多様化を進め、中長期的にベンチマークを上回る投資成果をめざしてまいります。
- 商品性の改善として、信託報酬率の見直しを行い、2024年12月に信託報酬率を1.87%(税込、年率)から1.705%(税込、年率)へ引下げを実施しました。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型成長型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを過去3年以上の期間では下回る状況であり、ベンチマークであるRUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)を過去1年や3年では上回っていますが、過去5年以上の期間では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド	2000/05/02	15	24.2	18.7	7.7	8.9	1.8	1.70
国内株式・大型成長型 カテゴリ平均			24.0	23.3	12.8	10.9	4.3	0.90
RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)			17.7	18.5	8.9	9.2	2.5	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)は、国内の成長株市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

三菱UFJ グローバルイノベーション〈愛称:ニュートン〉

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/160083.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 日本を含む世界株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチを基本としたアクティブ運用により、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざします。
- 万有引力の発見で有名な近代科学の祖ニュートンのように探究心と情熱を持って次の時代を創るイノベーション(産業構造の変化・技術革新)を見極め、特定の産業に偏ることなく世界の未来を牽引する関連企業へ積極的に投資し、将来の高い成長性を享受しつつ長期的に安定した運用をめざします。
- 日本を含む世界株式に投資します。イノベーションに国境はありません。各投資テーマに沿ったグローバル・ボトムアップ・アプローチによりテーマ分散を意識しながら世界的な競争力のある企業を選定します。
- 組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行います。

2 運用状況の振り返り

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均や参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を下回る投資成果となりました。主に2022年以降において、当ファンドが投資する海外株式の投資テーマの市場分析および銘柄選択へタイムリーに反映する枠組みが十分でなかったことから、銘柄選択効果がマイナスに影響しました。
- 運用改善にあたっては、2024年以降、海外株式の組入比率引上げや海外株式ユニバースにおける米国株式を中心としたユニバースへの移行、イノベーション分析における定量的な評価手法の導入による投資判断の精度向上に向けた取り組みを進めてきました。
- 過去1年では、カテゴリ平均や参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を下回る投資成果となりました。国内株式について銘柄選択効果がプラスに寄与したものの、ポートフォリオの30%程度を占める海外株式が、国内株式市場が上昇するなかで相対的に劣後したことが主因と考えています。海外株式の組入比率の引上げや海外株式ユニバースにおける米国株式を中心としたユニバースへの移行は、海外株式市場が国内株式市場と比べ相対的にパフォーマンスが良好であった局面では改善効果はありましたが、過去1年を通じてみると、十分なパフォーマンス改善には至りませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 更なるパフォーマンスの改善に向け、2025年10月より以下の改善策を実施しました。
 - ①海外株式ユニバースの拡大(これまでのユニバースでは捉えることができなかった投資機会へのアクセスを可能にする)
 - ②継続的に取り組んできたイノベーション分析手法の改善により新たなイノベーションを捉え、「銘柄選択へタイムリーに反映する枠組み」による投資判断の精度向上策を運用プロセスへ実装
- 足元は国内株式市場が相対的に堅調な中、海外株式市場が劣後する結果となりましたが、イノベーションやその社会実装は今後も海外が先行すると考えており、海外企業への直接取材などを通じてボトムアップリサーチの強化にも取り組んでいます。こうした情報収集や分析を国内株式のリサーチにも活用し、イノベーションを捉えて中長期でリターンを獲得する運用をめざしてまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型成長型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ グローバルイノベーション	2000/06/30	56	16.5	16.0	5.7	9.6	5.7	2.16
国内株式・大型成長型 カテゴリ平均			24.0	23.3	12.8	10.9	4.6	0.90
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			25.5	24.7	16.3	10.8	5.0	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

未来イノベーション成長株ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/261722.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 日本を含む世界の株式を主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
 - 次の時代を創るイノベーション*を見極め、魅力ある投資テーマを選定します。投資テーマに基づき、日本を含む世界の未来を牽引する企業へ積極的に投資することで、将来の高い成長を享受し、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
 - 日本株を中心に世界の株式に投資を行います。ボトムアップ・アプローチによりテーマや産業の分散を意識しながら競争力のある企業を選定します。日本の企業を中心に、日本国内に加えグローバルなイノベーションを捉えられる企業に投資を行います。
 - 組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
- *当ファンドにおいては、技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組み等を取り入れて、新たな価値を生み出すことをいいます。

2 運用状況の振り返り

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均を下回る投資成果となりました。主に2022年以降において、当ファンドが投資する海外株式の投資テーマの市場分析および銘柄選択へタイムリーに反映する枠組みが十分でなかったことから、銘柄選択効果がマイナスに影響しました。
- 運用改善にあたっては、2024年以降、海外株式の組入比率引上げや海外株式ユニバースにおける米国株式を中心としたユニバースへの移行、イノベーション分析における定量的な評価手法の導入による投資判断の精度向上に向けた取り組みを進めてきました。
- 過去1年では、カテゴリ平均を下回る投資成果となりました。国内株式について銘柄選択効果がプラスに寄与したものの、ポートフォリオの30%程度を占める海外株式が、国内株式市場が上昇するなかで相対的に劣後したことが主因と考えています。海外株式の組入比率の引上げや海外株式ユニバースにおける米国株式を中心としたユニバースへの移行は、海外株式市場が国内株式市場と比べ相対的にパフォーマンスが良好であった局面では改善効果はありましたが、過去1年を通じてみると、十分なパフォーマンス改善には至りませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 更なるパフォーマンスの改善に向け、2025年10月より以下の改善策を実施しました。
 - ①海外株式ユニバースの拡大(これまでのユニバースでは捉えることができなかった投資機会へのアクセスを可能にする)
 - ②継続的に取り組んできたイノベーション分析手法の改善により新たなイノベーションを捉え、「銘柄選択へタイムリーに反映する枠組み」による投資判断の精度向上策を運用プロセスへ実装
- 足元は国内株式市場が相対的に堅調な中、海外株式市場が劣後する結果となりましたが、イノベーションやその社会実装は今後も海外が先行すると考えており、海外企業への直接取材などを通じてボトムアップリサーチの強化にも取り組んでいます。こうした情報収集や分析を国内株式のリサーチにも活用し、イノベーションを捉えて中長期でリターンを獲得する運用をめざしてまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型成長型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
未来イノベーション成長株ファンド	2018/03/27	170	15.9	16.5	6.1	—	7.7	1.71
国内株式・大型成長型 カテゴリ平均			24.0	23.3	12.8	10.9	12.2	0.90

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・大型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

03 国内株式・大型割安型

対象ファンド数 当社8ファンド／業界全体79ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド8本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
30.1	27.8	21.3	11.4	1.14

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が大きく、同規模の株式に比べ株価が相対的に割安、または成長性が相対的に低い日本の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。日本の株式市場の時価総額上位70%の株式が大型と分類される。バリュエーションが割安で(株価収益率が低く、配当利回りが高い)、利益率、売上成長率、純資産価値、キャッシュフローの成長性が低いポートフォリオが割安型と分類される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	MAXIS日本株高配当SMART50上場投信	2025/11/12	7	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	MAXIS高配当日本株アクティブ上場投信	2023/09/06	98	—	■
2	システム・オープン	1983/05/24	84	—	■
3	日経平均高配当利回り株ファンド	2018/11/09	2,269	—	■
4	日経平均高配当利回り株ファンドII	2024/11/29	165	—	■
5	日本株スタイルセレクトオープン(ピッグ・ウイング・ワン)三菱UFJスタイルセレクト・パリューフンド(愛称変革)	2000/05/02	6	—	■
6	三菱UFJ SRIファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)	2004/12/03	28	●	■
7	割安株ジャパン・オープン	2011/06/17	181	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・大型割安型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

三菱UFJ SRIファンド<愛称:ファミリー・フレンドリー>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/250452.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「ファミリー・フレンドリー企業」として高く評価され、かつ株価が本来あるべき価格(理論株価)に対して割安と判断される銘柄に投資し、信託財産の長期的な成長を目標として運用を行います。ただし、ポートフォリオのリスク管理の観点から、ファンドマネジャーの判断により、前記以外の銘柄を組入れることがあります。
- ファンドにおいて「ファミリー・フレンドリー企業」とは「仕事と生活を両立でき、多様で柔軟な働き方を選択できる企業」をいいます。ファミリー・フレンドリー企業としての評価は、グッドバンカー社からの投資助言に基づいて行います。
- 個別銘柄の理論株価および理論株価に対する割安度の測定については、三菱UFJ信託銀行と同社グループの投資理論研究機関「MTEC」(三菱UFJトラスト投資工学研究所)が共同開発した「理論株価モデル」を活用します。
- 当ファンドは「サステナブル・ファンド」です。詳細については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/houshin/csr/index.html>)をご覧ください。

2 運用状況の振り返り

- 参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を過去10年以上の期間では下回る状況が続いています。2010年以降の株式市場で、割安度に着目した運用手法が株式市場全体の値動きに対して劣後する局面となり、当ファンドが活用する「理論株価モデル」の有効性が低下しました。一方で、人的資本投資への関心の高まりから「ファミリー・フレンドリー企業」への投資は一定程度プラスに寄与したものの、割安度に着目した運用手法の長期にわたる劣後を上回る投資成果は獲得できませんでした。
- 2023年1月実施の運用改善において、「理論株価モデル」で算出した割安度を基にポートフォリオを構築する際に、配当利回りなどの割安度との相性の良い投資指標の追加を行ったほか、リスク水準の引上げを実施しました。改善実施後の運用は、割安銘柄の組入比率を高めたことはプラスに寄与しましたが、個別銘柄要因や業種要因に左右されるなど、ポートフォリオ構築方法に課題があると認識し、制約条件に使用する業種分類や閾値の見直しなどの最適化条件や運用プロセスの改良に向けた分析に取り組みました。
- 過去1年ではポートフォリオ構築方法の課題に対する改善策の検討を継続しつつ、これまでの運用を継続しました。国内金利上昇などを背景にバリュー優位な環境下、これまで実施した改善策の効果は得られましたが、ポートフォリオへの割安銘柄の組み入れが不十分だったことなどから、十分なパフォーマンス改善には至りませんでした。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- これまでポートフォリオ構築方法の課題に対する改善策を継続的に検討してきましたが、制約条件に使用する業種分類や閾値の見直しなどを行い、業種リスクを適切にコントロールしながら、割安銘柄の組み入れを高める改善案を検証し、十分な改善効果を確認したため、2026年3月より導入いたしました。
- 割安度に注目した運用手法を活用している他の運用担当者とモデルの分析に関するミーティングの機会を頻繁に設けるなど、運用担当者間で密接に連携しながら、引き続きパフォーマンスの向上に向けた運用改善を実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・大型割安型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況であり、参考指数である東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を過去1年や3年、5年では上回っておりますが、過去10年や設定来では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ SRIファンド	2004/12/03	28	25.5	25.2	16.5	8.9	5.9	1.64
国内株式・大型割安型 カテゴリ平均			30.1	27.8	21.3	11.4	7.8	1.14
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)			25.5	24.7	16.3	10.8	7.7	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※国内株式・大型割安型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。
 ※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示しているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、国内株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

04 国内株式・中小型ブレンド型

対象ファンド数 当社1ファンド／業界全体33ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
28.7	22.8	14.6	10.1	1.57

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。日本の株式市場の時価総額下位30%の株式が中小型と分類される。成長または割安のいずれの特性も優勢でないポートフォリオがブレンド型と分類される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS JPX日経中小型インデックス	2017/06/12	16	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型ブレンド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

05 国内株式・中小型成長型

対象ファンド数 当社7ファンド/業界全体114ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド7本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
20.4	13.9	5.9	9.1	1.63

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が小さく、同規模の株式に比べ成長性が相対的に高い日本の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。日本の株式市場の時価総額下位30%の株式が中小型と分類される。利益、売上、純資産、キャッシュフローの成長性が高く、バリュエーションが割高な(株価収益率が高く、配当利回りが低い)ポートフォリオが成長型と分類される。カテゴリ内のファンドは、急成長を遂げている業種に投資する傾向がある。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	Jオープン(小型株)	1994/06/30	59	—	■
2	いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	7	●	■
3	いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	101	●	■
4	ジャパニーズ・ドリーム・オープン	2000/02/29	33	—	■
5	中小型成長株ジャパン・オープン	2013/08/02	20	—	■
6	ファンド・オブ・オールスター・ファンズ	2000/09/28	96	—	■
7	三菱UFJ 好配当日本株ファンド(2ヵ月決算型)	2006/02/01	66	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

いちよし 公開ベンチャー・ファンド/いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/149017.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/253036.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
- わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式の中から、企業の成長性が高く、かつ株価水準が割安であると判断される銘柄を中心に投資します。公開ベンチャーを中心とした投資を行います。
- 中小型株に特化した、いちよしアセットマネジメント株式会社の運用アドバイスを受けます。いちよしアセットマネジメントは、中小型および新興の成長企業の調査に特化したいちよし経済研究所のリサーチ力を活用し、公開ベンチャーに特化した運用アドバイスを行います。
- いちよし経済研究所が調査、分析する中小型成長株を中心にいちよしアセットマネジメントが投資候補ユニバースを作成します。
- そのユニバース銘柄の中から、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行い、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。いちよしアセットマネジメントの担当ファンドマネジャー、いちよし経済研究所の中小型株専門アナリストによる徹底したリサーチ力を活用して、三菱UFJアセットマネジメントが銘柄選定を行います。

2 運用状況の振り返り

- 2021年後半以降、米国の利上げ懸念の高まりなどから、株式市場では特に成長期待の高い銘柄や時価総額の小さい銘柄が目立って下落しました。当ファンドが中心として投資を行う公開ベンチャーは一般的に市場平均より成長性が高く、時価総額が小さい特性をもつため、こうした市況の影響を受けてパフォーマンスが悪化いたしました。
- 運用改善として2024年より投資ユニバースを拡充し、より希少性が高く中長期的な成長が見込めると考える銘柄の発掘と投資を行いました。投資ユニバースの拡充による運用改善は一定の改善効果を得ることができましたが、業績予想未達の銘柄を保有したこと等による銘柄選択がマイナスに影響し、十分なパフォーマンス改善には結びつきませんでした。
- 過去1年では国内金利上昇などを背景にバリュー優位の相場となり、当ファンドが保有する小型グロース銘柄群は相対的に出遅れる展開となったことに加え、情報・通信業や機械セクターにおける銘柄選択などがパフォーマンスの低迷要因になりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- これまで実施した改善策の効果をふまえ、いちよしアセットマネジメントと協議を重ね、運用パフォーマンスの更なる向上を図るために、2025年7月～8月に以下のような改善策を実施しました。
 - ・ 運用状況を踏まえ、運用体制の抜本的な変更が必要であると判断し、ボトムアップによる銘柄選定力強化を目的として、いちよしアセットマネジメントにおける運用担当者の変更を実施しました。
 - ・ 銘柄選定の柔軟性を高め、成長期待の高い銘柄への投資機会を獲得するために、投資ユニバースのさらなる拡充を実施しました。
- 引き続き、いちよしアセットマネジメントと密にコミュニケーションを取り、パフォーマンス改善効果についてモニタリングを実施してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内株式・中小型成長型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるRUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
いちよし 公開ベンチャー・ファンド	2000/11/30	7	5.2	▲1.7	▲6.5	3.1	3.9	1.86
いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	2017/11/17	101	5.2	▲1.7	▲6.5	—	▲2.9	1.86
国内株式・中小型成長型 カテゴリ平均			20.4	13.9	5.9	9.1	6.4	1.63
RUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)			28.0	22.5	11.6	10.5	6.9	

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しており、カテゴリ平均およびRUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)の設定来は「いちよし 公開ベンチャー・ファンド」の設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内株式・中小型成長型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。
 ※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示しているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※RUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み)は、国内の中小型株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。ただし、東証再編に伴い、設定から2022年4月1日まではJASDAQ INDEXとし、連続させて指数化しております。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

06 国内株式・中小型割安型

対象ファンド数 当社2ファンド／業界全体34ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
30.5	25.5	18.7	11.4	1.26

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

株式時価総額の規模が小さく、同規模の株式に比べ株価が相対的に割安、または成長性が相対的に低い日本の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。日本の株式市場の時価総額下位30%の株式が中小型と分類される。バリュエーションが割安で(株価収益率が低く、配当利回りが高い)、利益率、売上成長率、純資産価値、キャッシュフローの成長性が低いポートフォリオが割安型と分類される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	好配当優良株ジャパン・オープン	2012/05/18	87	—	■
2	日本好配当利回り株オープン(3ヵ月決算型)	2005/06/07	397	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・中小型割安型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

07 国内株式・特定地域/セクター型

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体68ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
25.6	20.4	14.4	8.6	0.96

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

ある特定の産業や業種、セクター、地域、テーマなどに関連した日本企業の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは、分散されず特定の産業や業種に集中投資する傾向にあるため、市場全体の銘柄が投資対象となっている指数と比較すると、金利、為替、景気の変動などの特定のマクロ経済の影響を受けやすい。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	MAX I S S & P 東海上場投信	2011/02/21	79	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内株式・特定地域/セクター型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

08 国内REIT

対象ファンド数 当社12ファンド/業界全体143ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド12本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
26.9	6.4	6.4	5.0	0.64

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

オフィスビルや商業用不動産などに投資する日本のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 国内リートインデックス	2019/10/31	350	—	■
2	eMAXIS 国内リートインデックス	2009/10/28	143	—	■
3	MAXIS Jリート・コア上場投信	2018/04/16	669	—	■
4	MAXIS Jリート上場投信	2014/02/24	2,439	—	■
5	MAXIS 高利回りJリート上場投信	2017/10/10	583	—	■
6	三菱UFJ <DC> J-REITインデックスファンド	2012/01/10	51	—	■
7	三菱UFJ 国内リートインデックスファンド	2022/10/03	6	—	■
8	ラップ向けインデックス f 国内リート	2021/04/16	78	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	三菱UFJ <DC> J-REITファンド	2007/12/07	185	—	■
2	三菱UFJ Jリートオープン(3ヵ月決算型)	2004/06/22	473	—	■
3	三菱UFJ Jリートオープン(年1回決算型)	2013/11/29	79	—	■
4	三菱UFJ Jリートオープン(毎月決算型)	2010/10/25	24	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内REITカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

09 国内債券・中長期型

対象ファンド数 当社14ファンド/業界全体149ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド14本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲5.3	▲2.7	▲2.9	▲1.1	0.37

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の公社債、資産担保証券のうち、平均残存期間が3年以上のものを主な投資対象とする。このカテゴリに分類されるファンドの金利変動リスクは、国内債券・短期型に比べて高めとなる。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 国内債券インデックス	2017/02/27	302	—	■
2	eMAXIS 国内債券インデックス	2009/10/28	72	—	■
3	日本超長期国債インデックスファンド(ラップ向け)	2020/12/28	13	—	■
4	ファンド・マネジャー(国内債券)	2007/10/31	107	—	■
5	三菱UFJ DC国内債券インデックスファンド	2002/02/05	953	—	■
6	三菱UFJ <DC>日本債券インデックスファンド	2001/12/05	54	—	■
7	三菱UFJ 国内債券インデックスファンド	2009/02/02	16	—	■
8	三菱UFJ 国内債券インデックスファンド(確定拠出年金)	2012/10/29	550	—	■
9	ラップ向けインデックス f 国内債券	2021/04/16	92	—	■
10	ラップ向け日本超長期国債インデックスファンド II	2022/01/27	1	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	ジャパン・ソブリン・オープン	2004/06/11	60	—	■
2	ジャパン・ソブリン・オープン(資産成長型)(愛称: ジャパソブN)	2013/11/21	19	—	■
3	三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	15	●	■
4	三菱UFJ 日本国債ファンド(毎月決算型)	2010/09/30	40	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・中長期型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

三菱UFJ <DC>日本債券ファンド

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/928194.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- わが国の公社債を実質的な主要投資対象とし、わが国の公社債の指標であるNOMUR A - BPI 総合インデックスをベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資成果をめざします。
 - 日本債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債に投資します。ポートフォリオのデュレーション*はベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。銘柄選定は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。
- *デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。この値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

2 運用状況の振り返り

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均やベンチマークであるNOMUR A - BPI 総合インデックスを下回る投資成果となりました。
- セクター戦略(どの債券種別をベンチマーク対比オーバーウェイト/アンダーウェイトするかを決める戦略)や銘柄選定は奏功したものの、ベンチマーク対比のリスク水準がやや低かったことなどもあり、当ファンドはベンチマークを下回る投資成果となりました。
- 2024年5月以降、事業債などの保有比率の引き上げによるリスク(スプレッド(利回り格差))水準の引き上げを進めており、依然としてベンチマーク対比のリターンは下回るものの、改善が進み、マイナス幅は縮小しています。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 運用改善については、引き続き市場分析や景気分析の精緻化を図りマーケット見通しの確度を高めつつ、市場環境に応じデュレーション・イールドカーブ等のベンチマーク対比のリスク水準を引き上げた運用を継続しています。また、2025年10月からは、組入債券の格付について柔軟性を高める改善策を導入しました。
- 商品性の改善として、信託報酬率の見直しを行い、2025年11月に信託報酬率を0.682%(税込、年率)から0.583%(税込、年率)へ引下げを実施しました。引き続き商品性の改善に向けた取り組みも継続し、パフォーマンス改善に注力してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、国内債券・中長期型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークであるNOMUR A - BPI 総合インデックスを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	2001/12/07	15	▲6.1	▲3.2	▲3.3	▲1.4	0.2	0.68
国内債券・中長期型 カテゴリ平均			▲5.3	▲2.7	▲2.9	▲1.1	0.3	0.37
NOMUR A - BPI 総合インデックス			▲6.0	▲2.9	▲2.8	▲0.9	0.7	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※国内債券・中長期型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※NOMUR A - BPI 総合インデックスは、国内債券市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【当資料で使用する指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

10 国内債券・その他

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体11ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲0.0	1.2	1.4	0.1	0.42

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の債券を主な投資対象とするものの、他の国内債券のカテゴリに該当しないファンドが分類される。例として、インフレ連動債や変動利付債を主要投資対象とするファンドが含まれる。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 国内物価連動国債インデックス	2014/11/06	45	—	■

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

11 国内債券・公社債投資信託

対象ファンド数 当社12ファンド／業界全体74ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド12本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.3	0.2	0.1	0.0	0.10

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本の公社債を主な投資対象とする。このカテゴリに分類されるファンドは、信託約款上、株式には一切投資できず、債券や短期金融商品を中心に運用する公社債投信に限定される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	追加型・公社債証券投資信託(1月設定)	1961/01/31	4	—	■
2	追加型・公社債証券投資信託(2月設定)	1961/02/24	7	—	■
3	追加型・公社債証券投資信託(3月設定)	1961/03/24	3	—	■
4	追加型・公社債証券投資信託(4月設定)	1961/04/24	6	—	■
5	追加型・公社債証券投資信託(5月設定)	1961/05/24	2	—	■
6	追加型・公社債証券投資信託(6月設定)	1961/06/24	4	—	■
7	追加型・公社債証券投資信託(7月設定)	1961/07/24	3	—	■
8	追加型・公社債証券投資信託(8月設定)	1961/08/24	5	—	■
9	追加型・公社債証券投資信託(9月設定)	1961/09/22	2	—	■
10	追加型・公社債証券投資信託(10月設定)	1961/10/20	3	—	■
11	追加型・公社債証券投資信託(11月設定)	1961/11/20	5	—	■
12	追加型・公社債証券投資信託(12月設定)	1961/12/20	6	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内債券・公社債投資信託カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

12 国内短期金融資産

対象ファンド数 当社7ファンド/業界全体31ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド7本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.2	0.1	0.0	▲0.0	0.20

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

オーバーナイト・コールや、コマーシャル・ペーパーなど日本の短期金融市場を主な投資対象とする。主に、他のファンドへの乗り換え等に際して投資資金を一時的にプールしたり、流動性を確保したりするために利用される。

当社ファンド一覧

◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	GRAN NEXT マネープールファンド	2021/01/19	4	—	■
2	MUFG ウェルス・インサイト・ファンド(マネープール)	2021/05/25	2	—	■
3	日本株スタイルセレクトオープン(ビッグ・ウイング・ワン) BWマネープールファンド	2000/05/02	0.1	—	■
4	マネー・プール・ファンドVI	2011/06/17	0.4	—	■
5	三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンド>(愛称:グローイング・スター)	2011/09/21	0.01	—	■
6	三菱UFJ 新興国債券ファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンド>	2009/04/28	0.3	—	■
7	三菱UFJ 米国バンクローンファンド 通貨選択シリーズ<マネープールファンドA>(愛称:スマートスター)	2013/10/15	0.2	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※国内短期金融資産カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

当資料に関するご留意事項等

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、三菱UFJアセットマネジメントのプロダクトガバナンス活動に関して当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。販売会社は当社ホームページでご確認いただけます。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

当資料で使用する指数について

- 東証株価指数(TOPIX)(配当込み):TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み):RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス(配当込み)は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- RUSSELL/NOMURA Small Cap インデックス(配当込み):RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス(配当込み)は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- NOMURA-BPI総合インデックス:当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

モーニングスター・カテゴリについて

©2026 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstarおよび/またはその関連会社またはコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製、改作または配布してはならず、(3) 正確性、完全性または適時性を保証するものではなく、(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者のいずれも、この情報の使用から生ずるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

設定・運用

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会/一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJアセットマネジメントのお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **0120-151034** ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>
(受付時間/営業日の9:00~17:00)